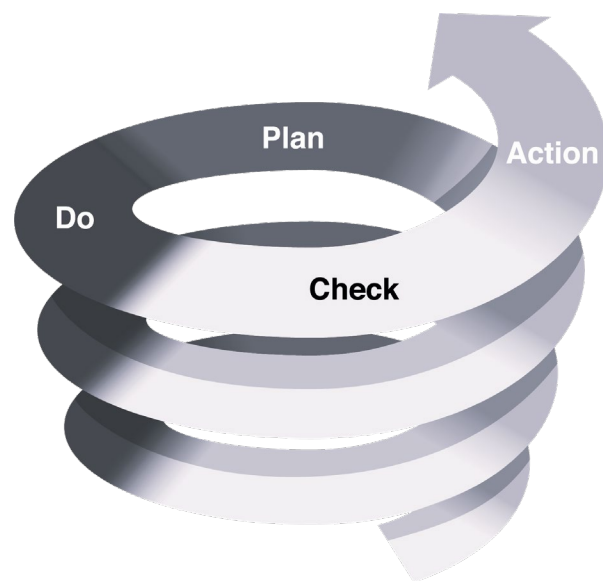


令和 6 年度後期

授業に関する自己点検評価



函館大谷短期大学
FD 委員会・SD 委員会

〈ビジネス情報学科〉

科 目 名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
保育実習指導Ⅰ （保育所） 【こども学科科目】 藤村 敦	「保育実習Ⅰ」の目的が分かり、その具体的内容や方法、実習生としての心構え等を理解する。また、保育実習Ⅰに必要な基本的知識を習得する。	アンケートの結果、総合的な満足度は4.87、授業の進め方は4.94、授業内容は4.91であり、こども学科1年の全体平均を上回った。このことから、講義中の演習及び小テストの実施、そのフィードバックの実施は適切であると思われた。	今後も講義で得た知識を基にして実際の保育場面にあてはめて考える演習を効果的に行うとともに、演習を行った次の講義の冒頭で行っているフィードバックを丁寧に行っていくようにしたい。
情報処理技術者試験対策Ⅱ 伊藤 聡	高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を持ち、実践的な活用能力を身につける。	前期までと比較し、「予習・復習の週平均時間」が増加しそれに伴い、満足度も高くなったことがわかる。 毎回、自宅学習課題を配布し、それをこなすことで、理解が深まっていくのを、学生自らが感じ得たと考える。	ICT業界への就職へ向けての基本資格であることを、学生に理解させ、モチベーションを保ちながら、教育の質も高めていきたい。
秘書実務 渋田 昌士	ビジネスマナー（敬語、名刺交換、来客応対、電話応対など）の習得と実践ができること。	復習は必要としているものの、復習に対しての基準を徹底していなかったことがある。またそのヒントとなる資料提示が少し足りなかったと考える。 また、授業も一方向の授業になっていたことが多かったため、双方向の授業展開が必要だと感じた。	復習に必要な課題の到達点を毎回確認することが必要だと思う。 また、双方向の授業展開を目指し、学生が参加できる項目を取り入れることが必要である。
経営学入門 伊藤 好一	組織・企業の特徴について理解を深めつつ、基礎的な経営理論の修得および近年の経営課題に対する自分なりの考えを持つことを目指す。	「予習・復習の週平均時間」の1.97については検討する必要があることを確認できた。「意見や質問の出しやすさへの配慮」が4.79と最も高いが、毎回の授業で配布しているリアクションペーパーによる質問収集とそれに対する細やかな返答が効果的であったと考える。	「予習・復習の週平均時間」については、より具体的な予習・復習の指示を出し、次回講義時に振り返りを行う時間を設ける。「授業への意欲」や「興味関心」を引き出せるように、なるべく学生の興味ある事例や具体例の選別により力を入れて授業を行いたい。

科 目 名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
産業心理学 今在 景子	歴史的背景とともに産業心理学の知見を理解する。 組織場面における問題に対して産業心理学の知見を生かした見方ができるようになる。	授業振り返りアンケートの結果を見ると、授業内容、授業の進め方は概ね高く評価されている。特に「授業の目的の明確さ」が高く評価されており授業の目的を学生に理解してもらえたことがうかがえる。	「予習・復習の週平均時間」の評価が他の基準と比較して極端に低いことが示されている。自習のための課題は課しているが、それ以上の自発的取り組みを促すよう、授業内容と自分たちの生活のつながりをさらに強く認識させる必要があると考えている。
情報基礎演習Ⅱ 齊藤 大晶	1. Excelによる基本的な統計分析手法を身につける。 2. 経営・会計分野での実証分析の基本を身につける。	授業評価アンケートでは、「授業内容への興味関心」(4.71),「授業の目的の明確さ」(4.73)など高評価を得ており、学生が機械学習に対して強い関心を持って取り組んでいたことが確認できた。また、「総合的な満足度」(5.00)と満点であり、具体的なテーマ設定や実践的な内容が評価された。 さらには「予習・復習の平均時間」(2.50)と依然低いものの、前回に比べて約1.0ポイントの改善も見られた。ただし、依然として高い状況とは言えないため、授業外での学習促進を引き継ぎ実施していく必要があると考える。	予習や復習を促進するため、講義資料に課題以外の練習問題を追加し、学習時間を増やす工夫を行う。また、課題解説の時間を拡充し、学生の理解を深めるとともに、復習用のチュートリアル資料を提供することで、自己学習を支援する環境を整備することを検討する。
法学入門 (日本国憲法を含) 田中 綾太郎	「リーガルマインド」、すなわち、社会生活と密接した法律問題について自ら理論的に思考する能力、方法を獲得してもらうことである。	授業の予習・復習を意識的に行う必要がないため授業振り返りアンケートにおいて、「予習・復習の週平均時間」について評価が低くなっている。	日常生活において問題意識を持つことそれ自体が「予習・復習」であることを学生に理解してもらえよう、説明を丁寧に行いたい。

科 目 名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
カラーコーディネーターⅡ 吉田 麻子	色彩実践の講義と演習によって自分ならではの色彩活用の技術を磨いたうえで、「色彩検定３級」で学んだ基礎を応用し、「色彩検定２級」の理解と合格を目標とする。	授業内容の質については満足の高い結果であるものの、実際の生徒の自宅学習の時間が確保できているかと言うと、その面は低いように思われる。とはいえ小テストや配色演習課題の成績が優良であることを考えると、より丁寧さが問われるような課題が必要であるように思われる。	授業内だけでなく、自宅学習の確保を推進するカリキュラムとするために、毎回の小テストの実施およびその点数が具体的にどのように評価につながるのかを周知していくことに加え、配色等の課題においてはより工夫が必要となるようなものに改善していく。

〈こども学科〉

科 目 名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
教育方法 乳井 英雄	教育・保育の方法理論とその技法を身に付ける。また，幼稚園教育要領を理解した上で，育みたい資質・能力を踏まえた指導方法を習得し，保育全体を見渡す知識・技能を身に付ける。	アンケート結果では，設問領域「学生の受講態度」が平均値3.91，「授業内容について」が平均値4.72，「授業の進め方について」が平均値4.61，そして「総合評価」においては4.81という学生評価であった。総合評価が前年度よりも上昇していたことは，それなりの成果かもしれない。 設問領域の平均値はともかくとして，設問項目においては「学生自身の予習・復習の時間」が非常に少ないという学生本人の自己評価が多数存在している。 また，前述以外の各設問項目の中では「授業内容への興味関心」が4.46で最も低くなっている。 後期になり，講義のスタイルにも慣れてきたことから，総合評価は高かったようである。	改善ポイントとして，学生に対する予習や復習の充実と教材の工夫を検討と，授業中における質問の機会をさらに改善しなければならない点をあげておく。 また，ガイドラインにより科目内容がほぼ定められているが，10代の学生がさらに関心を持つような提示方法を検討しなければならず，それは容易ではないかもしれない。
子育て支援 渡谷 能孝	保育士の専門性である保護者に対する相談，助言の知識や技術を理解し，家庭環境に合わせた支援の在り方について考える。また，子育て家庭を取り巻く状況から，保護者に対する相談，助言の具体的に展開することができる。	授業内容については，目的も明確に伝わっていることがわかりました（評価4.79）。また，授業の進め方につきましても教材や機器の使い方の工夫も学生にとって学習の理解を深めることにつながり，高い評価となった（評価4.82）。 学生へ伝えたいことが多くあり，スライドの進め方が少し早かったことを反省しなくてはいけない。	学生が興味，関心をもって授業に取り組んでいることが明確に理解できたこともあり，より深みを増した授業の展開が必要であると感じた。 また，具体的な事例の展開に申し少し時間を費やせることができるよう，配分を考えて実施していくことは必要である。

科 目 名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
保育実習指導Ⅰ (施設) 阿部 千春	実習施設の役割や機能、保育士の職務内容や役割について理解するとともに、既習の科目全体で学んだ理論と実習を関連づけて、実習における自己の課題を明確にすることをめざす。	学んだ内容を実習に生かしているとする姿勢がみられた。講義や課せられた多くの課題を通して達成感や自信に繋げ、実習に対する不安を軽減させることが大切であると伝えていたため、確実に取り組もうとする学生が多かった(到達目標の達成4.84, 授業外の学習時間3.50)。また、講義や施設長講話、DVD視聴等を通して、学習成果の到達目標に対する新たな知識の習得や実習に向けての具体的なイメージづくり等に役に立ったようである(「新しい知識の習得」5.00, 「教材や機器の使用などの工夫」4.92)。	○講義内外で、個々の学生に合わせて対応をより丁寧に行うことにより、初めての本実習である施設実習に対する疑問や不安の解消、実習に対する意欲や学習内容の定着につなげたい。 ○施設での支援の仕方や社会人として身につけるべきルールやマナーについて具体例を挙げながら学ばせていきたい。
子ども家庭福祉 太田 望	・歴史的背景や子どもの権利、現代の諸問題等についてグループで考え、調べたことをまとめることができる。 ・取り組んだ課題について、他の学生に伝えるための発表をすることができる。	相互に発表する活動は、学生が相互に話し合い、内容理解を高めよう様子も見られたが、受講者全体の理解には及ばなかった。そのため、ワークシートの取り組みに切り替えたが学修すべき内容全体をあたえるには、内容が薄まってしまった。	学生が学修内容の理解を深めるにはある程度、触れるべき内容に強弱を付けると学生も取り組みやすいと考えられる。また、保育に絡めてエピソードを紹介すると、学生の理解が深まるだろう。
保育音楽 土谷 育代	・子どもの歌のピアノ演奏と弾き歌いを豊かな表現で演奏することができる。 ・子どもの歌のコードネームによる伴奏付けと移調奏ができる。 ・手あそびをレパートリーとし、実践できる。	Ⅰ.「受講態度」では、「目標の達成」と「意欲」が高かったが「予習・復習」は低かった。意欲は高いが学習が不足している。Ⅱ.「授業内容」は全体の項目の中で高かった。特に「シラバスに即した授業」と「知識や技能の習得」が高かった。知識・技能の習得の有益性を理解していると考えられる。Ⅲ.「授業の進め方」では、「話し方や説明の仕方」が低かった。改善する必要がある。	授業に対する意欲は高く、授業内容の目的や知識・技能の習得の有益性は伝わっていると思われる。そこで授業内容の定着のために、具体的な学習内容を明示して予習・復習を働きかけることが必要である。学生が授業を理解し、学習意欲が高まるように伝えることを意識していきたい。

科 目 名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
保育内容総論 村田あきの	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 3. 保育の多様な展開について具体的に理解する。	授業態度では、予習復習の週平均時間がやや低いスコアである。授業内容と授業の進め方については概ね満足度が高い（4.8以上）結果となった。 また、前年度課題であった製作課題の製作時間の確保だが、学生一人ひとりに見通しを持たせ計画的な作業を促すことで、全ての学生が規定の時間内に作業と発表を行うことができた。発表準備と製作のための事前事後学習の時間も適切だと考えられる。	授業態度の「予習・復習の週平均時間」の項目で課題があったため、次年度は授業準備や提出課題を見直し、より充実した学習成果の達成を目指す。
保育の心理学 工藤 絵里	子どもの発達に関わる心理学や子どもの学びの過程、各発達段階における心理的特性についての基礎的な知識を習得し、子どもへの理解を深める。	アンケートの結果から、項目「学習成果の到達目標に対する新しい知識や技能の習得」は平均値5.00であったが、「予習・復習の週平均時間」は最低値を示しており、予習・復習に結び付いてないことがわかった。	予習・復習時間が少ないという課題については、資料内容の見直しや定期的にレポート課題を出すことも検討する必要がある。今後も学習方法に関する分かりやすい指導に努めていく。
保育・教職実践演習（幼稚園） 土川 千枝	これまでの学修および教育実習を通しての学び等を振り返り、自分の良さや課題を明らかにし、就業に向けて、良さを伸ばし課題を改善する。	研究保育に向かって、チーム毎に切磋琢磨しながら一人一人の学生が主体性を持って真剣に取り組む姿が見られたが、前半は他行事を終え疲れからかモチベーションを上げるために時間を要した。また、校内の環境・遊具・備品等十分に把握できておらず、学生の問いに即回答できなかったことは大きな反省点である。	・学生が主体的に進めようとする意欲を高められるような授業計画の見直しを図るとともに内容についても工夫する。 ・今年度の反省を基に、校内環境等をしっかりと把握して授業に臨む。

科 目 名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
子どもの健康と安全 葛西真理子	子どもの疾病や事故などに対応することが求められる。時事問題を取り上げて、実際への対応を応用できる知識・演習を身に付け職業へとつなげる。	施設見学や避難訓練参加など実際に保育を体験し、その指導を目的のあたりにすることで、その目的や指導の仕方を学ぶ機会があったのは良かった。 また、グループ討議やシンク・ペア・シェアなどアクティブラーニングを取り入れたことで、多様な意見に気づくことにつながっていると思われる。レポート提出は、自分の理解度を認識する意味でも良かったと思う。	健康・安全に関する基礎知識やその必要性を学べるような個々への対応が必要だと感じる。アクティブラーニングを取り入れた授業内容を組み立て、グループ討議やペアでの意見交換は成果をみせていたと思うが、個々の理解度や興味についてはさらに検証が必要だと感じた。さらに実践力が高まるような授業計画の再構成が必要だと感じた。
子どもの保健 小杉あゆみ	子どもの誕生から幼児期までの心身の成長過程を理解する。	「予習・復習の週平均時間」が「3.27」と他の項目に比べて低値であったが、昨年度の「1.70」より上昇した。授業ではグループワークを中心としたことで、個人が積極的に予習する機会が増えたと考える。	講義時間中には、ほとんどの学生がグループワークに積極的に参加することができたが、個々の理解度を図る機会が少なかった。復習機会を増やす等、更に理解を深める工夫を検討する。
子どもの保健 齊藤 眞樹	子どもの誕生から幼児期までの心身の成長過程を理解する。	メンバーを3回程度変えたことでグループ内での、学生の得手・不得手を学生同士で補い、分担し授業の発表に臨んでいた。協調性なども育まれたし、質問にもそれが出ていた。質問に対しては、回答する時間を設けたことで復習にもなった。	グループの中でもリーダーとして学習をまとめていた学生が中心となり進めていたが、まとめ方や発表の仕方など、指導助言していく必要がある。